

5月18日(水) 校長講話「笑顔あふれる戸倉小」

今、「なかよし旬間」です。笑顔があふれる戸倉小にするために絶対にあってはならないのは、いじめです。

まずこの、「いじめだよ」(フランチェスコ ビトー 作 ブロンズ新社)です。「みられたくないことを こっそりのぞきみ いじめだよ。じぶんがしたのに ひとのせい いじめだよ。……(たくさんのいじめのこと)……いじめばかりしていたらひとりぼっちになっちゃう。」いじめってひどいなあ。いじめた人もいつかは一人ぼっちになってしまうことがわかりますね。



次は、「いじめのきもち」(童心社)という詩集です。この中の「さみしい夜」という詩を読んだとき、校長先生が5年生だった時のことを思い出しました。そのころドッジボールが好きな友達が5人いて、毎日夢中で遊んでいました。ところがある日突然「メンバーから外す」というメモが届いてとてもいやな気持ちになりました。その日から、その友達とは遊ばなくなりました。校長先生はクラスの友達と遊んでいたのでひとりぼっちになることはありませんでした。この詩を読んだとき、47年も前のいやな気持ちを思い出したのです。しばらくしてまた一緒に遊べるようになったけれど、その時のいやな気持ちって忘れないものなのです。

次はいじめっ子の話です。これは、「いじめられている君へ いじめている君へ いじめを見ている君へ」(朝日新聞社編)という本の中にあつたお話です。

「A君は、最近までいじめっ子だった。グループを作って変わったところのある子や生意気な子、ぼんやりしている子をいじめていた。『川の学校』に行つて驚いた。どんくさそうな子が自分の知らないことをたくさん知っていたり、自分を助けてくれる中3の男の子がいたり……自分がやっていることが幼稚なものに思えた。



人をいじめるなんてかっこ悪い、つまらないと思った。小さな世界でいい気になっていて恥ずかしい。」

A君は、人をいじめるみじめで小さな世界よりも、もっと自由で楽しい場所があることを知っていじめから脱出しました。

みなさんも、いつも同じ人といろんな小さな世界ではなく広い世界に出て、いろいろな人と交流してみましょう。

いじめは絶対にしないという強い心を持ってください。見たら、止める。そして先生や友達に相談しましょう。みんなで力を合わせて笑顔あふれる戸倉小学校にしましょう。